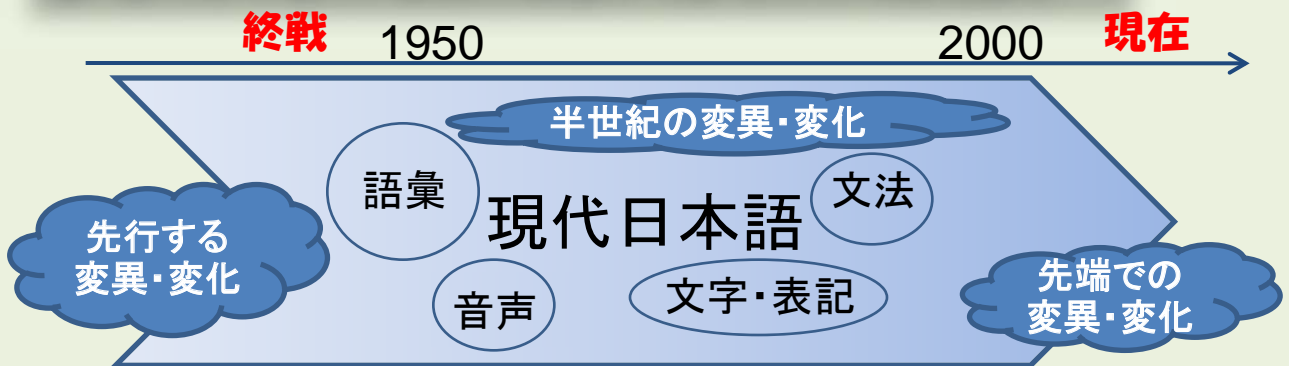


# 「多角的アプローチによる 現代日本語の動態の解明」

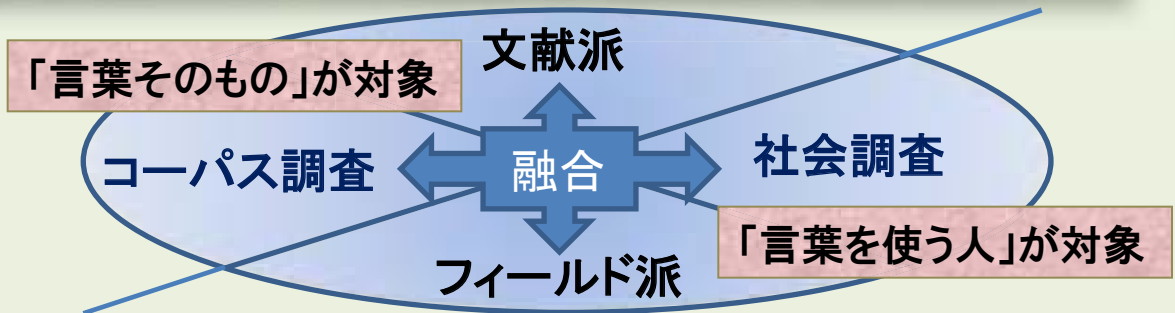
リーダー：相澤 正夫（時空間変異研究系）

## 概要

- 「現代日本語」の変異の実態から変化の方向性を読む



- 「多角的アプローチ」の融合により総合的に「動態」を読む



- 実施する研究テーマの観点

- ① 言語変化の先端現象の把握・分析
- ② 戦後60年余の通時的変化の把握・分析
- ③ 新たな分析手法の開発・適用
- ④ 新規資料の発掘・分析
- ⑤ 言語問題の解決に資する応用研究の実施

# 『現代日本語の動態研究』

2013年10月、おうふう刊 A5判 262ページ 2,500円（本体）

- 書名が端的に示すとおり、「現代日本語」の「動態」に関わる多彩な「研究」の成果を、12編の論文としてまとめた論文集。
- プロジェクトでは、12回の研究発表会を通して、近接した領域で類似の言語現象を研究しながら、一堂に会して議論をする機会の少なかった様々な背景をもつ研究者に、情報交換や相互啓発の「場」を提供してきた。
- この本は、そのような「場」から生まれた第一段階の成果であり、「現代語動態研究」の「構築」を進めていくための「足場」として、広く活用されることを願っている。

## 第1部 動態研究の実際 —分析対象の側面から—

### 〈語・慣用句〉

研究例へ

- 動詞ヒモトクにおける伝統用法と新用法の共存／相澤正夫(国語研)
- 外来語動名詞「チェック」の基本語化 —通時的新聞コーパス調査と意識調査の結果から—／金愛蘭(東外大)
- 慣用句“気がおけない”の「誤用」について／新野直哉(国語研)

### 〈文法・表現〉

- サ変動詞の五段活用化・上一段活用化の現状／松田謙次郎(神戸松蔭女大)
- 新聞データ(朝日『聞蔵』)に見る「なく中止形」の動向／金澤裕之(横浜国大)
- “道理に合わない”授受表現の使用と動態 —愛知県岡崎市での経年調査および最近の全国調査から—／尾崎喜光(ノートルダム清心女大)

## 第2部 動態研究の基盤 —データと分析手法の側面から—

### 〈コーパス調査〉

- 探索的データ解析による言語変化研究 —蛇行箱型図によるS字カーブの発見—／石井正彦(大阪大)
- 現代日本語における外来語表記のゆれ／小椋秀樹(立命館大)
- 分かりにくい医療用語の類型と語の性質／田中牧郎(国語研)

### 〈対人調査〉

- 方言と共通語に対する意識からみた話者の類型 —地域の分類と年代による違い—／田中ゆかり(日本大)・前田忠彦(統数研)
- 「とびはね音調」はどのように受けとめられているか —2012年全国聞き取りアンケート調査から—／田中ゆかり(日本大)
- NHKアナウンサーのアクセントの現在 —複合動詞を中心に—／塩田雄大(NHK放送文化研)

マルクスまでをもひもとく読書家

宇宙の歴史をひもとく気球実験

- 動詞ヒモトクには、〈書物を読む〉という意味の「伝統用法」に加えて、〈分析・解明する〉という意味の「新用法」が急速に広まり、近年は両用法が共存状態にあるようだ。
- 新用法の成立が伝統用法とどのような関係にあるのか、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(略称:BCCWJ, 約1億語収載)から抽出した用例の分析に基づき、全国規模の使用意識調査も援用しながら、両用法の共存プロセスと今後の変化の方向を多角的に解明する。
- あわせて、「歴史をヒモトク」に見られる伝統用法と新用法の二面性、ヒモトクの多様な表記と用法との関係、ヒモトクの出現文脈と用法との間に見られる傾向など、意味・用法の識別に有効な観点を具体的に指摘する。

## 1. 大規模コーパスに見る伝統用法と新用法の使用実態

表記と媒体から見たヒモトクの出現状況(用例数)

|      | 書籍  | 雑誌 | 新聞 | 広報紙 | Web | 国会 | 計   |
|------|-----|----|----|-----|-----|----|-----|
| ひもとく | 73  | 6  | 4  | 6   | 5   | 3  | 97  |
| ひも解く | 5   | 2  | 0  | 2   | 1   | 0  | 10  |
| 紐とく  | 1   | 0  | 0  | 0   | 1   | 0  | 2   |
| 紐解く  | 27  | 2  | 0  | 1   | 12  | 0  | 42  |
| 繙く   | 30  | 3  | 0  | 0   | 0   | 0  | 33  |
| 計    | 136 | 13 | 4  | 9   | 19  | 3  | 184 |

- 表記の多様性／斉一性の観点から、  
多様 ⇒ 書籍, 雑誌, 広報紙, Web  
斉一 ⇒ 新聞, 国会会議録
- 「紐」「繙」は表外漢字 ⇒ 公共性の高い新聞, 国会会議録では、交ぜ書きも含めて使用を回避。
- 「繙」という表外漢字は、ヒモトクの伝統用法を知っている人でなければ使えないはず。  
⇒ その用法を伝統用法と予測できる。
- 「紐解く」「紐とく」「ひも解く」は、表記面からも二つの形態素と捉えられやすい。  
⇒ 「もつれた紐を解く」といった新用法のイメージとの親和性が高いと予測できる。

- 伝統用法と新用法の意味論的な成立原理は、  
伝統用法: 紐を解いたあとの「読む」という動作を間接的に表現 ⇒ メトニミー (metonymy: 換喩)  
新用法: 「ひもをゆるめて解く」という具体的な動作に基づき、抽象的な働き・精神的作用を表現 ⇒ メタファー (metaphor: 隠喩)
- 伝統用法は古風な文章語・教養語として衰退傾向に。「ヒモトク」という語形の強いイメージ喚起力が、メタファーによる新用法の発生・普及を促し、この語を再生させた。

「～をヒモトク」と「～のひもをトク」の用法分担

|         | 具体的動作 | メトニミー | メタファー |
|---------|-------|-------|-------|
| ～をヒモトク  |       | 伝統用法  | 新用法   |
| ～のひもをトク | ○     |       |       |

\* リュックをひもとく

ヒモトクの伝統用法と新用法の出現状況 (伝統用法 / 新用法)

|      | 書籍     | 雑誌  | 新聞  | 広報紙 | Web  | 国会  | 計      |
|------|--------|-----|-----|-----|------|-----|--------|
| ひもとく | 64/9   | 3/3 | 3/1 | 3/3 | 2/3  | 3/0 | 78/19  |
| ひも解く | 4/1    | 1/1 | 0/0 | 2/0 | 1/0  | 0/0 | 8/2    |
| 紐とく  | 1/0    | 0/0 | 0/0 | 0/0 | 1/0  | 0/0 | 2/0    |
| 紐解く  | 19/8   | 1/1 | 0/0 | 1/0 | 7/5  | 0/0 | 28/14  |
| 繙く   | 29/1   | 3/0 | 0/0 | 0/0 | 0/0  | 0/0 | 32/1   |
| 計    | 117/19 | 8/5 | 3/1 | 6/3 | 11/8 | 3/0 | 148/36 |

- 全体の出現状況は、伝統用法148例(80.4%)、新用法36例(19.6%)で、およそ4対1。
- 「紐く」は、33例中の32例が伝統用法と判定され、ほぼ上述の予測どおりの結果。
- 「紐解く」は、伝統用法28例(66.7%)、新用法14例(33.3%)で、全体の平均よりも新用法の比率がかなり高い。二つの漢字による表記が新用法の意味と親和的であることを示唆する結果と見られる。
- Web, 雑誌, 広報紙で新用法の比率が高いのは、媒体の性格よりも、むしろデータの対象時期が2000年代であることが大きく影響していると思われる。

## 2. 伝統用法と新用法を媒介する「歴史をヒモトク」

47例＝全用例  
の4分の1

書かれたもの  
としての歴史  
＝ヒストリイ

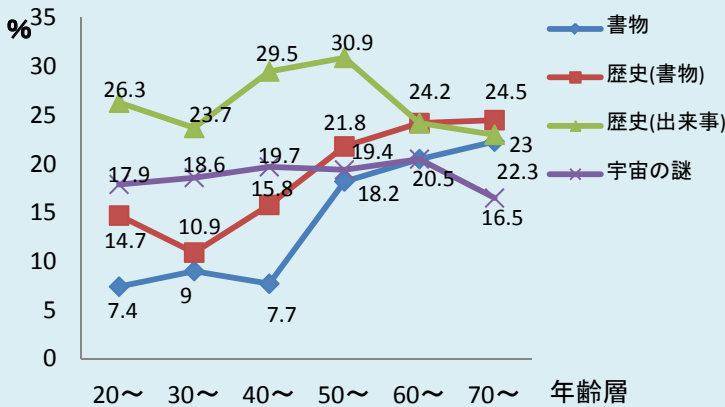
出来事としての  
歴史＝ゲンヒテ

- ①【伝統用法】書物を読む。
- ② 歴史をヒモトク＝歴史書を読む。(歴史＝書かれたもの)
- ③ 歴史をヒモトク＝歴史書(記録・文書)を参照して調べる。(同上)
- ④ 歴史をヒモトク＝多様な手段で歴史を解明する。(歴史＝過去の出来事)
- ⑤【新用法】事物がどうなっているかを分析・解明する。

- 「伝統用法は条件節の中で使われやすい」という顕著な傾向が観察される。  
「～をヒモトクば、～」 「～をヒモトイてみると、～」のように、〈読んで調べる〉という「参照モード」で多用される。  
⇒ 伝統用法と認定するための手がかりとなり、〈調べる〉という新用法につながる意味が読み取れる点が重要。
- 「新用法は受け身形や可能形でも用いられる。「真実が紐解かれていく」「ルーツが紐解ける」など。  
「もつれた紐を丁寧にほどいていく」といった具体的なイメージを喚起する用例が目立つ。「一つ一つ」などの副詞と共に。  
⇒ 新用法は、「疑問(謎)を解く」よりも、〈解きほぐす〉さらには〈解説する〉に近い意味・用法を次々と派生。
- 「歴史をヒモトク」の②「読書モード」と④「探究モード」の間に③「参照モード」を介在させれば、用法の連続性が捉えられる。

## 3. 全国規模の意識調査に見る話者の使用意識の実態

ヒモトクの4つの用法の使用率(年齢層別)



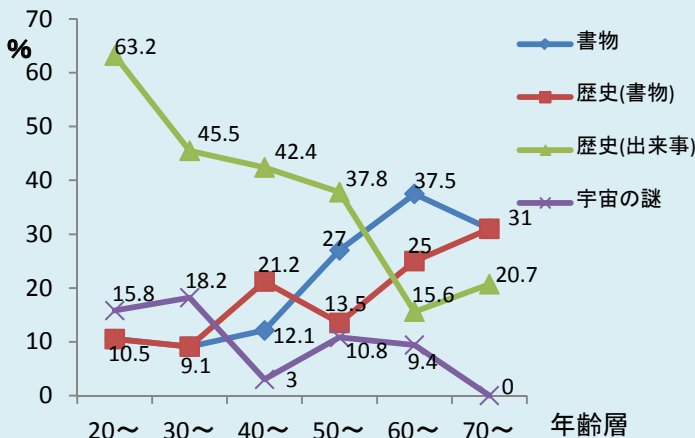
【対象】全国16歳以上の男女903名

【質問】次の4つの用法のそれぞれについて使うか。

- ① 書物をひもとく＝書物を開いて読む
  - ② 歴史をひもとく＝歴史について書かれた書物を読む
  - ③ 歴史をひもとく＝歴史がどうなっているかを解き明かす
  - ④ 宇宙のなぞをひもとく＝宇宙のなぞを解き明かす
- ※10代は使用者の実数が少ないため省略

- 60～70代の高年層では4つの用法の使用率に大差はないが、50代以下では年齢層が低くなるにつれて、ほぼ高い水準で推移する新用法と、大きく低下を見せる伝統用法とに二分されていく。
- 20～40代では、新用法が伝統用法をはっきりと上回っており、両用法の使用率は見事に逆転している。
- さらに若い世代における新用法の伸長と伝統用法の衰退が予想される。

ヒモトクを使う人の初めての使い方(年齢層別)



【対象】ヒモトクを自分でも使うと回答した176名

【質問】4つの用法の中で、「初めて覚えて使ったときの使い方に近いもの」を1つ選ぶとすれば、どれか。

⇒現在ヒモトクを自分でも使う人から、かつて最初に身に付けて使ったときの用法を、当人の記憶をたよりに聞き出したもの

- 60代以上では伝統用法が新用法を上回っているが、50代で「歴史をひもとく」の新用法が激増して4つの用法の第1位となり、以下の年代では圧倒的に強い勢力となっている。
- 同じ新用法でも「宇宙の謎をひもとく」は、70代のゼロから若年層に向けて微増を続けている。一方、伝統用法は、徐々に、しかし確実に減少している。
- 若年層にとってヒモトクの意味は、第一に〈分析・解明する〉であり、〈書物を読む〉は背後に退いている。伝統用法は意識的な学習によってのみ維持される「教養語」の地位にあると言えるだろう。